

# 島渡の診療、20年へ島倉船

## 外耳炎に悩む海女救う

### 金沢の島民の成長見守り続け 小森さん

年に一度、船倉島へ渡り、海女たちの診療を続けている金沢市橋場町の小森耳鼻咽喉科医院院長、小森貴さん(五〇)が来月三日、二十年目の診療に訪れる。過酷な潜水業務で耳の病気に悩まされていた多くの海女を救い、島民の成長も見守ってきた小森さん。節目の年を迎え、医療の枠を越えた島民との触れ合いを今年も心待ちにしている。

小森さんが、初めて船三(昭和五十八年九月)があつたが、派遣され島倉へ渡ったのは一九八〇年。当時から島には診療所を医師の任期が短いこ



船倉島への健診を続け、二十年目を迎える小森さん 金沢市橋場町

とや、専門分野が異なることなどから、島民は病気を我慢しがちだった。

このため、県が専門医による健診事業「船倉島僻地総合診療」を開始。県立中央病院に勤務して

いた小森さんは、当初からこの事業に参加し、開業してからも悪天候で島へ渡ることができなかった年を除き、毎年、健診を続けてきた。

海女を診察する中で、

小森さんは外耳炎の人が多いことに気付いた。原因が海女たちが耳栓代わりで使用していた粘土にあると疑った小森さんは、シリコン素材の耳栓を無料で配布。数年後には外耳炎の患者が大きく減少したという。

二十年の間に島民も成長し、子供が大人に、大人が高齢者になった。小森さんは「島民の成長を見てこられたことは、医師としての誇り。島民から『もう来なくていい』と言われるまで、三十年、四十年と続けていきたい」と話している。

来月3日から

「塗師文化大学」

輪島漆器協組

輪島漆器商工業協同組

合の講座「塗師文化大学」は八月三日から六日